

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

ハーヴェイ・ミルク

The Times of Harvey Milk

彼の死にサンフランシスコの街は泣いた

彼がこだわったのは たったひとつ

Who am I ?

第4回人権問題講演会

映 画 「ハーヴェイ・ミルク」 1984年ドキュメンタリー作品／87分

講 演 「アメリカにおける同性愛解放運動の流れ」

レインボープライド愛媛

代表 エディ さん

11月1日(土)13:30~16:30

コムズ 5階 大会議室

主催:NPO 法人「Do」
(松山市委託事業)

後援:松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会

愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM愛媛・あいテレビ

愛媛朝日テレビ・愛媛 CATV・リビングまつやま

©telling pictures

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

第4回人権問題講演会(入場無料:定員100名:申し込みは不要です)

日 時 11月1日(土)13:30~16:30

場 所 コムズ 5階 大会議室

映 画 「ハーヴェイ・ミルク」 1984年ドキュメンタリー作品

原題:「The Times of Harvey Milk」

ストーリー

1978年11月27日。夜のサンフランシスコを星が埋め尽くした。市庁舎内で殺害されたハーヴェイ・ミルクとマスコーニー市長の冥福を祈る人々が掲げたロウソクの炎だった。その数45,000。ハーヴェイ・ミルクは大学卒業後、海軍、証券アナリストを経てブロードウェイのプロデューサーとなる。その後、ベトナム反戦運動に関わるが、ニューヨークのゲイバー“ストーンウォール”を警官が襲撃した事件をきっかけにゲイ解放運動に参加してゆく。サンフランシスコに移住した後、積極的に地域住民と関わり、ゲイを公言した人物として史上初の市政執行委員に当選。ゲイだけではなく、黒人や他の有色人種、老人、レズビアンなど様々な社会的マイノリティの人々に支えられ、草の根運動を展開する。当初、デイというだけで彼を毛嫌いしていた人々も、次第に彼の誠実さや弱者のための行動を理解し、支持を広げてゆく。希望を持つことの大切さを訴えた彼の最大の理解者は、当時の市長ジョージ・マスコーニ。人生の絶頂期にあったミルクだったが、マスコーニ市長とともに、同じ市政執行委員であるダン・ホワイトに狙撃され、不慮の死を遂げる。そして、ホワイトの裁判は驚くべき展開を見せる…。

解 説

1984年アカデミー最優秀長編記録映画賞を受賞したドキュメンタリー。ゲイを中心として社会的弱者の権利獲得を訴えたサンフランシスコ市政執行委員ハーヴェイ・ミルクが1978年、同じ執行委員だった男に暗殺された事件を中心に、彼の活動を追っていく。自らをゲイと公言していた彼は、4度目の立候補で執行委員に当選。保守的な人々から批判されながらも、確実にマイノリティの支持を得るようになっていく。映画は、当時の記録フィルムや彼を知る人々へのインタビューをとおして、感動的にその姿を浮き彫りにしている。

講 演 「アメリカにおける同性愛解放運動の流れ」

講師: NPO レインボープライド愛媛

代表 エディ さん

松山市男女共同参画センター運営推進委員・松山市人権教育推進協議会理事

同性愛や性同一性障害など性的マイノリティの人権啓発を行うレインボープライド愛媛の代表として、学習会やイベントの開催、愛媛LGBT映画祭の主催など、性的マイノリティへの理解を深めるための啓発活動を行うとともに、当事者同士の交流支援施設を開設するなど地域に根ざした活動を行っている。また、愛媛県人権問題講師として県内外での講演会活動を活発に行い、当事者の声を広く人々に届けている。